第12回 SPコン一次審査 通過作品公開！完全版

審査員による書類審査を突破し、二次審査（試聴審査）へ挑んだ作品がこちら。栄えある賞を獲得するのはこの中のどれかである。2月に行なわれる結果発表を前に、ここでは先行して審査員の面々より各作品試聴後の感想を掲載したのであわせてご紹介しよう。　写真・編集部

「一般部門」

対象：後述の「匠部門」の対象に該当しない方の作品

加藤 武さん作　Built-in ASW 3001

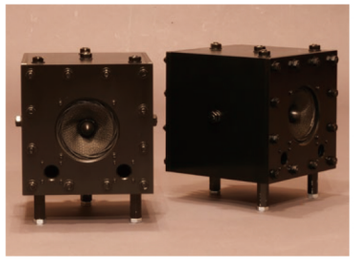
「同一ユニットをサブウーファー用に内蔵し、メインユニットは密閉型のスピーカー。色々なアイデアを盛り込み、測定と試聴を繰り返して調整する姿勢は素晴らしい。少し引き締まりすぎの感もあるが、ベースの量感や質感、合唱の音場、ピアノの粒立ちなどが良く、オーケストラでも解像度の高さが際立っていた」（小澤）

楠 亮平さん作　ちなり

「コンサートホール2F中央最前列の音を目指し、スピーカーの直接音と床の反射音の干渉を避けるため、薄くユニットを上向きにした床置き型の作品。ボーカルは自然で低音感もあり音場の広がりも感じられるが、床面に定位する音像は好みの分かれるところだろう」（佐藤）

伊藤 日出男さん作　三 季

「形もさることながら紅葉や朝顔、あやめなど和風の切り絵をあしらい、手作りの味わいを大いに感じさせる。バスレフ設計のようだが、ダクトにも詰め物を入れるなど調整の結果、低域に甘さを見せることなく、バランスの良いオリジナリティに富んだ作品」（石田）



中山 博之さん作　Black Cube

「鮮明な音像定位と、量感充分かつ輪郭が明快で高剛性な低域再現能力が傑出。演奏の直接音と残響とが瞭然と分離する様は、全鋼製ならではの超絶な領域です。一方で、金管楽器やシンバル、ピアノの高音域など、金属由来の楽器発音は実際よりも金属質な音に」（生形）

新井 健さん作　ラウンドスピーカー"ホワイティコ"

「低音から高音まで安定した伸びと豊かさが感じられ、ダイナミクスの変化がしっかりと伝わった。ジャズのウッドベースのアタックや、古典派のオーケストラの元気さ、ヴァイオリン独奏のノイズ的な表現など、いずれも自然。非常に音楽的なスピーカー」（飯田）

横川 伸介さん作　黒螺旋（くろらせん）

「3Dプリンターを使った、手でつかむと変形する柔らかい素材のエンクロージャー。もう少しベースの量感や一音一音の粒立ちが出せればベストだが、耳に刺さるようなところは全く無く、作者の狙いの通りの滑らかで自然に感じられる音質は魅力的に感じた。デザインも個性的だが面白い」（小澤）

岡谷 貞雄さん作　ロコモーティブだna

「昔の木造建築の手法をエンクロージャーに取り入れ、各板材は年輪から木の外周が表面に、節の位面から根元が底面側になるよう配置された作品。低音は軽めでボーカルはやや色付けを感じる。声楽やオーケストラなどもう少し分離し解像度があると好ましいだろう」（佐藤）

宮原 裕昇さん作　Synergy Qaura(シナジークオーラ)

「引き締まった低域の質感や艶っぽさを秘めた中高域の響きの美音はコンクリートと木材の融合による効果なのであろう。パーカッションの切れ味の良い躍動感も美しく印象に残る。フロントロードやバッフルの形状検証など更なる高みへの挑戦も面白そうである」（須藤）

小室 晃さん作　In the living

「塗装仕上げの綺麗なダブルバスレフ型スピーカー。ベースは量感がありながらも音程がしっかりとしていて、合唱は余韻まできれいに響く。3種類の木材を使い分けた手法は見事にマッチしたようだ。ただ、第2室の側板が響きすぎの感もあり、小板を貼り付けるなど調整した音も聴いてみたい」（小澤）

江草 洋さん作　ダイヤアレイ

「ラグビーボール状の筐体は3Dプリンターで作られ、ユニットは上下1対、背面対向で連結棒により強固に接続された作品。無指向性なのでリアルな音像よりは音場感の描写に良さを感じる。低音は誇張感がありもう少し自然にローエンドも伸びているとよかったか」（佐藤）

片山 和隆さん作　柾 目

「米松板を活かした木質の響きが美麗で、柔らかい手触りも大変心地がよいです。ドロンコーンは重めでエッジも固く、結果的に密閉型的な鳴りに近く、楽器のアタック表現が明快で澄んだ音が快感! 反面、低音量感は不足気味に聴こえ、強奏時にはピリつきも」（生形）

砺波 浩二さん作　キレイなカタチ

「木目模様の綺麗な鏡面仕上げと丸みを帯びて後方にさりげなく絞り込んだスタイルが清涼な音場の雰囲気に貢献していると思う。ややタイトな響きの質感はフォーカスにも優れて心地よい。バッフルフロントロード効果の追求など今後の挑戦にも期待したい」（須藤）

山田 彩人さん作　クロスバランス mark.II

「全体的に程よく厚みを感じるリッチな音色。パワフルすぎず美しいバランスだった。やや締まった音でもあり、教会音楽の合唱などはもう少し残響が伸びてもよいと感じた。オーケストラの定位は弱かったが、その分まとまりがよく、響きは生々しさがあった」（飯田）

鈴木 智さん作　シックONE

「3Dプリンターで築き上げたボディはコンパクトでティアドロップ型、剛性面からの不安もなく、音も標準的で中低域に柔らかな味わいを聴かせ音場感に優れ、合唱の厚い響きが印象的。フロントネット制作など意欲だが、最終仕上げにもうひと工夫ほしいところ」（石田）

堤 豊さん作

Acoustic101『Multi-resonance tube & Reverse horn- Integrated Tallboy』

「共振点の異なるふたつの音道、並びにトールボーイというサイズから、ユニットのサイズを超えた低域のエネルギーの獲得には見事に成功している。フロントにネットを設けるなど意欲も大いに感じさせるが、中域～中高域の透明感は幾分薄れているようだ」（石田）

森 慎吾さん作　ベリカンホーン

「フロントバッフルの柔らかな曲線と集成材の綺麗な木目が印象的な作品です。ホーンロードの響きの恩恵か、豪快で明瞭な音が堪能できます。特定音域の響きが少々支配的なきらいもあるので、ロード設計の追い込みや筐体剛性の向上を図ると一層効果的かもしれません」（生形）

◎応募作品規定

- 2021年8月発売ONTOMO MOOK「これならできる 特選スピーカーユニット 2021年版オンキヨー編」の付録であるオンキヨー製10㎝フルレンジ・スピーカーユニットOM-OF101のみを使用
- エンクロージャー1本の幅・高さ・奥行きの合計が150㎝以下、1本の総重量25kg以下のもの

ONTOMO MOOK
「これならできる
特選スピーカーユニット
2021年版オンキヨー編」

OM-OF101

開催のお知らせ

～伝えたいのは音質ではなく 音楽の本質～

第12回 自作スピーカーコンテスト

結果発表 & 作品披露会

2022年2月4日19時 YouTube『月刊stereo』チャンネルにて公開!

付録スピーカーユニットで競い合う。月刊ステレオ主催自作スピーカーコンテストを開催いたします。ONTOMO MOOK「これならできる 特選スピーカーユニット 2021年版オンキヨー編」付録、オンキヨー製10㎝フルレンジOM-OF101をレギュレーションユニットとした数々の応募作品の中から書類による一次審査と、試聴をまじえた最終審査を行ない、各賞を決定。年明けに「結果発表&作品披露会ONLINE」動画配信を行ないます。

音楽之友社へ寄せられた力作の数々。
今年はゲスト審査員として飯田有抄さんを招待

飯田有抄さん

●イベント配信日時

2022年2月上旬。詳細は本誌2022年3月号、
および「月刊ステレオブログ」(https://stereo.jp/)にて後日続報

●出演者

石田善之、生形三郎、佐藤勇治、岩出和美
ゲスト審査員:飯田有抄、他

●表彰内容

「匠部門」※1:テクニカルマスター賞
「一般部門」※2:第一位／第二位／第三位／
stereo賞／ゲスト審査員特別賞／オンキヨー賞

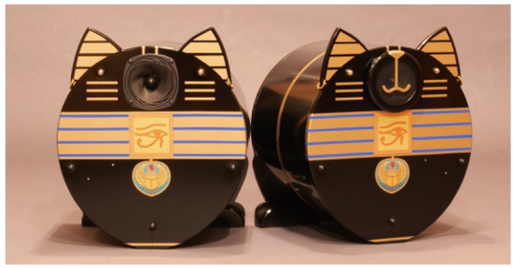
※1「匠部門」:2003～08年「本誌主催・自作スピーカーコンテスト」、2010～13年「本誌付録ユニットによる自作スピーカーコンテスト」において受賞歴がある方の作品。および2014～19年「自作スピーカーコンテスト・一般部門」において第1位を受賞した方の作品

※2「一般部門」:前述の「匠部門」の対象に該当しない方の作品
(2003～13年の間に開催された前述のコンテストで受賞時に中学生以下だった方の作品も「一般部門」の対象)

問合せ先
〒162-8716 東京都新宿区神楽坂6-30
㈱音楽之友社「stereo」編集部　「自作スピーカーコンテスト」係まで
☎ 03-3235-2124　st_craft_contest@ongakunotomo.co.jp

「匠部門」

対象：2003～08年「本誌主催・自作スピーカーコンテスト」、2010～13年「本誌付録ユニットによる自作スピーカーコンテスト」において受賞歴がある方の作品。および2014～20年「自作スピーカーコンテスト・一般部門」において第1位を受賞した方の作品



河野 雅幸さん作　K-93 BASTET

「応募書類含め、キュートでユーモアに富んだ完成度の高さはまさに匠の逸品。強度と密閉度を高めた着実な作り込みで基礎能力も十全です。共鳴管方式の泣き所である共鳴音はやや大きめのようで、ソースによっては、楽器の音が別の楽器のように聴こえる瞬間も」(生形)

山島 修さん作　踊る音(おどるね)

「この作品は2本とも正面ユニットからボイスコイルが擦れている様な異音が聴こえた為、応急処置を施してからの試聴となった。音場型らしい空間の広がりとレンジバランスの良さを感じられたが、ユニットのコンディションが本調子ではなかったことが惜しまれる」(佐藤)

尾崎 彰さん作　OJJ SOUND 2021エントリーMODEL

「見事なピアノフィニッシュが美しい。再現される音場にも鏡面から放射される美しい響きの対空をイメージすることができて素晴らしい。解放感にも優れた艶っぽさの表情も好印象。音場の豊かさも欲しいという作者には御意。更なる響きの品位に挑戦して頂きたい」(須藤)

海老沢 正さん作　Too Heavy

「素直なベースの質感や肉厚な響きの美音が好印象。サイズに相応の音場のスケール感は作者曰く超弩級への憧れが結実したものであろう。静寂さや艶っぽい響きの美しさも心地よい。解放感にも優れる。このスケール感をコンパクトサイズでというのは果たせぬ思いか」(須藤)

岩田 昌史さん作　RF215 ココロバ

「巨大な葉っぱにオンキヨーのトンボが留まっているというコンセプト。スパイラルバックロードホーンの低音は癖がなく軽やかで伸びている。大きなバッフルの効果で前方に展開する音場は他のスピーカーでは聴くことが出来ない魅力だ。葉脈彫刻の効果かは分からないが、歪感も小さく優秀なスピーカーだ」(小澤)

石田 健一さん作　木彫・Base Mishima1

「木工の美しさと精度の高さは毎回素晴らしい。今回はアカシア集成材を見事に仕上げ、内部も独自のショート・バックロードホーン+ショートホーンからしっかりとしたエネルギー感のある低音を聴かせ、ユニットの能力を最大限に引き出している」(石田)

鈴木 敏夫さん作　PHI-101

「軽快かつ柔らかな響きでまとまりもよかった。ジャズは生々しく、ヴァイオリンとピアノの室内楽も非常に自然。教会音楽の合唱はやや広がりに欠けたが、すっきりとハーモニーを伝える。クラシック音楽の鑑賞に相性が良く、ずっと聴いていたいスピーカーだと感じた」(飯田)